

株式会社もりまち

岡崎の森を起点として 中山間地域の持続可能性を高める



岡崎市は市域の60%を森林が占める森林都市。わたしたちはたくさんの恩恵を森林から受けていますが、木材価格の低迷や、所有者の高齢化などによる林業の担い手減少、生活様式の変化等を背景に、森林の持つ機能を十分に発揮するために必要な森林整備が実施されていない状況となっています。岡崎の特徴でもある、森と川、街を活かして、もりとまちを川でつなぎ、林業の活性化を通じて地域全体の発展を目指そうと 2022 年 2 月に設立された会社がもりまちです。

山の人たちが伐ってくれたものを街の人たちが使いやすいよう、品質、納期を約束できる流通体制の確立を目指すことをまず一番に。同時に、街側と山側の距離を縮めること、森について知ってもらうことも大事だと考えて、最近では一般企業との連携・協力の取り組みも加速させています。

「誰かの森」から「わたしたちの森」へ感じてもらうために実施している企業研修もそのひとつ。社員やその家族の方を対象に、森林の持つ涵養機能を体験するための水の実験をしたり、チェーンソーや枝払いの体験をしたり、森林の話をするだけでなく楽しく体験することを通じて、森の豊かさを体感してもらいます。自然との共生の話や体験をとおして、岡崎の森に興味を持ってもらい本業の中で何ができるか考えてもらう機会を持つことがとても大切です。

株式会社もりまち

岡崎の森を起点として中山間地域の持続可能性を高める

直接、密にコミュニケーションをとることによって、株式会社葵商店の梱包用木材の一部岡崎市産材への切り替えも実現、岡崎市産材の約半分はチップになってしまっていた現状打破に大きく貢献しています。立派な建築用材でなくても、当て板としては問題なく使える事実は、担当者同士が熱意をもってやり取りしたからこそ分かった発見。今までは規格品を大量生産大量消費する社会でしたが、これからは対話を重ねて、それぞれの事情を丁寧にすり合わせて、地域のものを大切に使うことが必要だと考えています。

街側、森側との人の交流を創出し、中山間地域に興味を抱いてもらうことによる、移住者の増加や担い手の確保を進めることで、林業活性化と合わせ森林を起点として中山間地域の持続可能性を高める働きをこれからも進めていきます。



まだまだ
SDGs



岡崎市では、市内公園の魅力を高めるため、また、SDGsの取り組みの一環として、公園に岡崎市産材のベンチを設置するための寄附を募っており、寄附事業にもりまちも共同で取り組んでいます。森林整備の促進に寄与するとともに、わたしたちが日常的に岡崎の木に触れる機会にもなっています。



自然豊かで特色のある暮らし、文化が息づく魅力的なオクオカエリアですが、人口は減少傾向にあります。もりまちではオクオカへの移住相談窓口「もりまっち」も運営。移住に興味のある方向けに、空き家見学ツアーや里山の仕事体験イベントなど様々な「もりまっち」機会を提供しています。



株式会社もりまち

岡崎市淡路町字堂面125

<https://morimachi-okazaki.jp/>